



▲ボランティアによる復旧作業

## 背景

平成16年(2004)、愛媛県新居浜市は相次ぐ台風襲来で多大な被害を受けました。9月の台風21号では、大生院<sup>おおじょういん</sup>などで土砂崩れが発生し、JR土讃線や松山自動車道、国道11号などの幹線交通網が寸断されるなどしました。この時には四国と本州を結ぶ瀬戸大橋やしまなみ海道が、山陽自動車道などとともに、遮断された幹線交通の代替ルートの役割を果たしました。この話は、交通遮断<sup>しやだん</sup>の状況の中で、被災後に被災状況の調査と復旧活動に当たった連合自治会長さんの体験談です。

## アクセス

土砂崩壊により松山自動車道が寸断された大生院付近

- いよ西条ICより東へ約2km
- 新居浜市大生院
- 緯度経度 北緯33度54分33秒, 東経133度15分41秒



新居浜市には全国的にも有名な太鼓祭りがあります。新居浜市出身者は正月に帰省しなくても、太鼓祭りには帰ってくるほどの祭り好きが多くいます。莫大な制作費がかかる巨大な太鼓台を維持できるのは地域の強い結束力があるからです。

この新居浜の町を襲った平成一六年(二〇〇四)の台風災害は今までに経験したことがないほどの大規模なものでした。山から流れてきた泥水は床上まで達しました。その泥水が引いた後には細かな泥が場所によっては二〇センチメートルもの厚さでべったりと貼り付いています。もちろん布団や家具なども水浸しで使えません。被災した人達は、「これだけの被害を受けて、今からどうしたら良いのか分からない」と途方に暮れていました。

その時です。比較的被害の少なかった地域の人たちが、自分の家の片づけもそっこのけで、「大変な災害が起こったものだ。とにかく家の片づけを手伝いましょう」と駆けつけてくれました。また、新居浜市の洪水災害がニュースで流れると、地元の人たちは言うまでもなく、遠くは関西などからも多数の人がボランティアに駆けつけてくれました。また、受験を控えた地元の高校生までもが床下に潜り込んで泥まみれになりながら復旧に取り組む姿が多く見られました。その姿を目の当たりにして、途方に暮れていた人たちは涙を流さんばかりに喜び、「地獄に仏とはまさにこのことです」と口々に感謝の言葉を述べました。地域の人たちの強い繋がりが災害復旧に大いに役立ちました。